

種山ヶ原は今③④

今日は冬至。カボチャ粥を食べるのがわが家の習慣。今日は昼間が一番短い日。毎夕5時に教会を鳴らしているので、時の流れが良く分かる。今教会は街灯がないため真っ暗です。明日から春に向けて少しずつ早く明るくなって行くのだろう。希望への一日目でもあるカボチャを食べるのは、昔、冬不足がちになるビタミンを摂取することと、「ん」(運)がつく食べ物を食べるためと言われている。尚、「ん」のつく食べ物カボチャ(南瓜ナンキン)、ぎんなんレンコン、ニンジン、冬瓜、キンカン、カンテン等を食べるらしい。〈 暗いだけに星がきれいに見える。今は金星〉



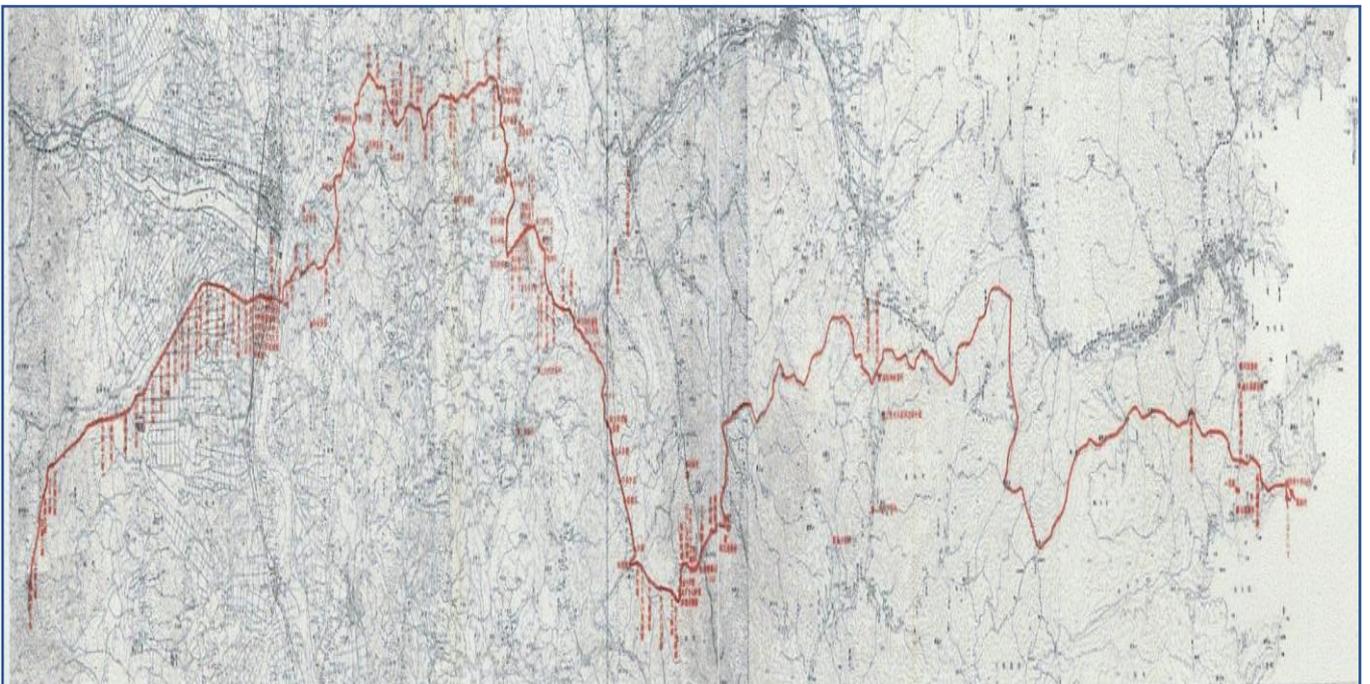
物見山も、五輪峠も伊達藩と南部藩の藩境塚だった。

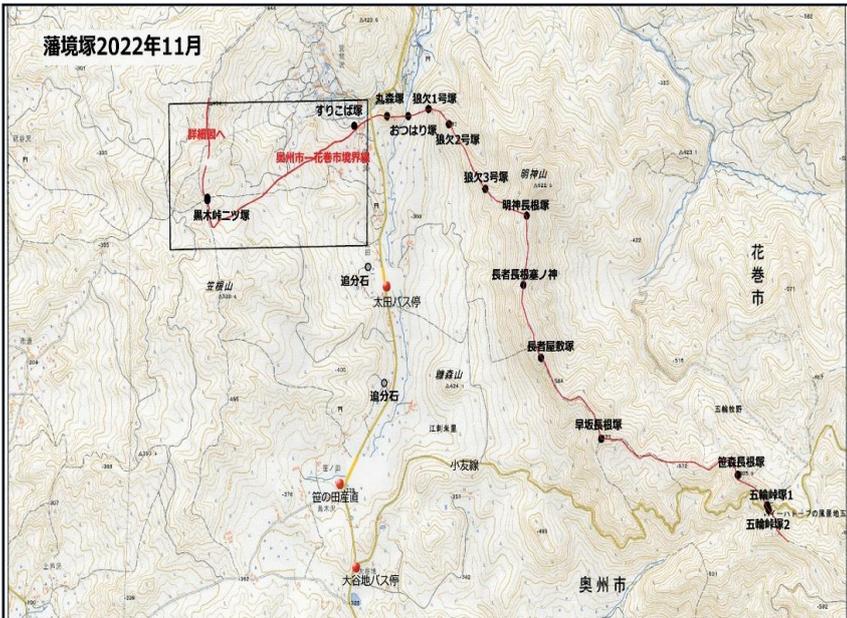
1, 藩境塚(領塚境)について

藩境塚は駒ヶ岳から釜石市唐丹まで約 130 km もあり、130 の塚があると言われているが、小塚まで含めるともっと多いと思う。

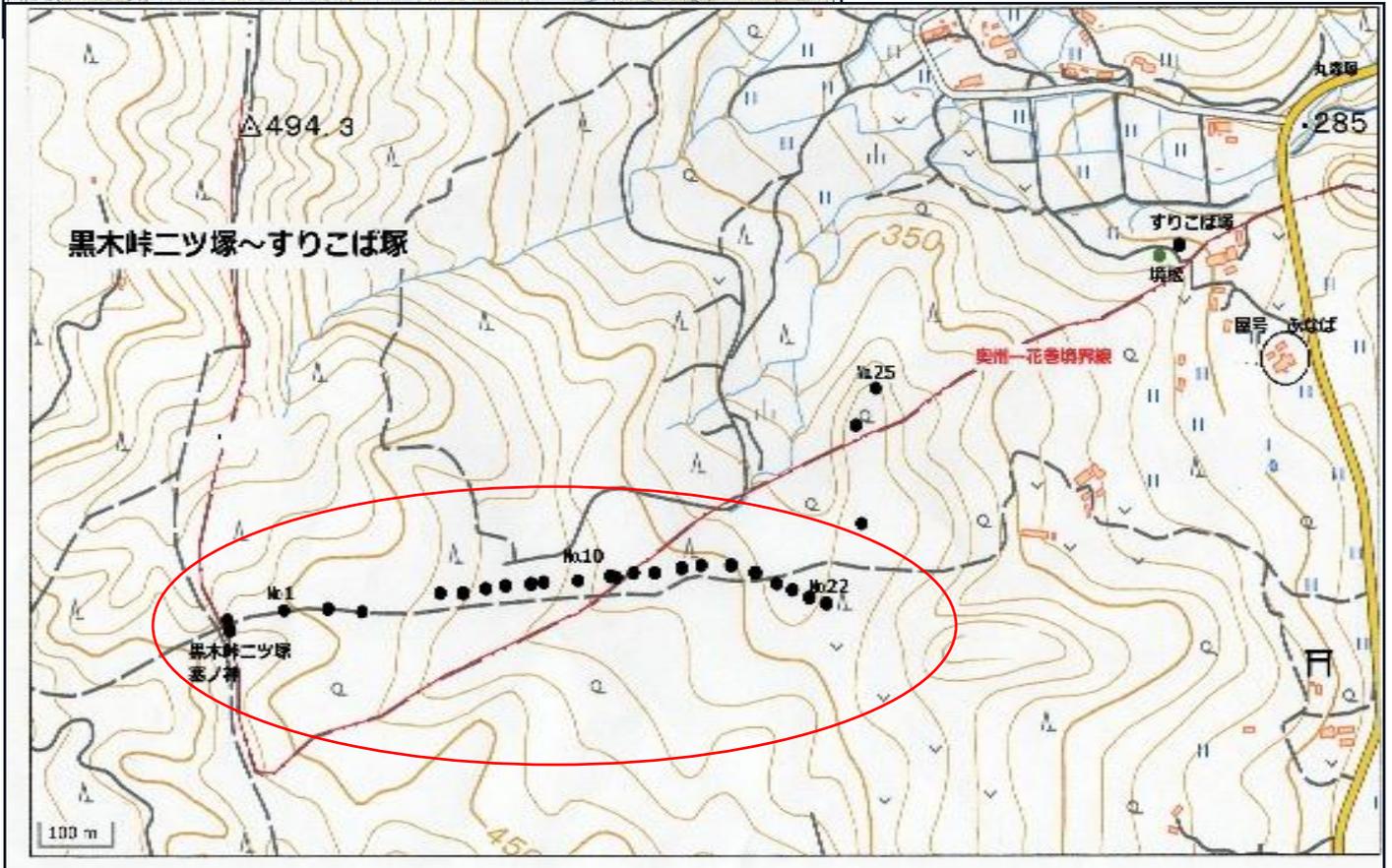
(1) その歴史

葛西氏が滅亡し、南部と伊達両氏が領地を接するようになった天正年間以来、境界線が不明確であったこともあって、境紛争などが続発、両勢力間で緊張感が高まったという。これを解消するために寛永 18 年(1641)、江戸幕府の老中職等の立ち合いの下で幕府裁定。双方が「申合せの覚え(協定書)」を取り交わして南部・伊達両藩の領域が決まった。しかし、協定を結んだ後も、書面内容があいまいだったこともあって、境塚の間隔が長すぎた個所や藩境設定以前の入会地の問題等、領域に関する複雑な問題が発生した。両地域の領民の間でも紛争が絶えなかったのだという。





昭和 38 年～53 年まで岩手大学が中心に調査した結果に基づいて、調査員の 高橋光朗 さんもその資料をもとに学間沢～五輪峠を一人で踏査し、昨年地区民を案内してくれました。写真のような塚がたくさん残っています。特に箱枠の部分は小塚が多く、騒動の絶えなかった地域で、再三役人が出向き調停し、小塚がたくさん残ったと思われます。次のページが拡大した地図です。



< 塚のある山林所有者千葉誠美さんのご厚意で保存されているのです。 >



五輪峠の藩境塚

『宮沢賢治が生徒と野宿した五輪峠にも藩境塚が』



<遠野側から撮った写真 岩手大資料より>

五輪峠を下りると、北には鮎貝に、南には上大内沢にそれぞれ『番所』があり、常時 7 人程の足軽が配置され、旅人の取締りを行っていた。峠が罪人の受け渡し場所、峠には色々なお話があるようです。

昭和 31 年県道 174 号建設工事が始まり、元々人が立っている付近が峠だったのでしょう。人が立っている所に藩境塚があったのです。工事のために半壊し、今もわずかに形をとどめています。峠を挟んで対になっています。また、④記念碑は五輪街道(県道 174 号)の竣工記念に建てられたものです。

④上の人は、この記念碑のすぐ上にいたこととなります。この高さまで掘り下げられたのですね。峠の左側に広場がありますが、工事の残土で埋め立てられてできたものです。高くなったため、「賢治街道を歩く会」の人達が階段を造り、旧五輪街道(上大内沢まで 40 分程)に下りれるようにしました。<○階段>旧五輪街道は大雨で道路が決壊して、通行不良。



街道には蛇紋岩が露出しており、賢治の詩の中にも出てくる。幼い頃「石っこ賢さん」と呼ばれるほどの石に興味関心を持っていたようですね。

尚、「蛇紋岩」は 2016 年 5 月 10 日に日本地質学会によって「岩手県の岩石」に選定されました。

蛇紋岩にも種類が色々あり、五輪峠から西に 3 km 程の所の蛇紋岩が非常に珍しいと研究所で現在分析中とのこと。

